

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：看護学科

資格：講師

氏名：黄 智暎

研究分野	研究内容のキーワード
ライフサイエンス / 精神神経科学 / 精神保健 ライフサイエンス / 衛生学、公衆衛生学分野：実験系を含まない / ライフサイエンス / 臨床看護学 / 精神看護学	公衆衛生学, 疫学, メンタルヘルス, 依存症・嗜癖, 健康格差, ギャンブル障害, ホームレス
学位	最終学歴
社会健康医学修士（京都大学大学院）（2017年3月） 医学博士（京都大学大学院）（2023年3月） 博士課程教育リーディングプログラム グローバル生存学大学院連携プログラム修了（2023年3月） 熱帯医学研修過程オンラインコース修了（長崎大学熱帯医学研究所）（2024年3月）	京都大学大学院医学研究科 医学専攻 博士課程研究指導認定退学（2021年9月）

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 大学院看護学研究科修士課程の講義	2021年～現在	武庫川女子大学大学院看護学研究科修士課程において「対人援助論」と「広域実践看護学特論C」の講義を担当した。「対人援助論」では、「貧困」をテーマとし、自ら支援探索行動をとらない人々の理解を深めるための視点や考え方について教授すると共に、自身がこれまで取り組んできたホームレス研究を例に挙げ、貧困者の健康問題やその支援について具体的な関りや必要とされる支援を示した。「広域実践看護学特論C」では、リカバリーとストレングスマodel、セルフケアに関する理論について教授し、ディスカッションや事例検討等を通して、学生自身が看護の対象者に対する具体的な支援を考える機会を設けた。
2. 精神看護学関連科目の講義	2021年～現在	武庫川女子大学看護学部看護学科において「精神看護学Ⅰ・Ⅱ」「グループアプローチ」の講義を担当した。「精神看護学Ⅰ・Ⅱ」では、精神疾患・障害の基礎的な知識を教授すると共に、精神疾患・障害をもつ人への看護を展開するうえで、必要となるアセスメントの視点や考え方について、演習課題やロールプレイングなども取り入れながら、理解が深められるようにした。「グループアプローチ」では、医療におけるチームの集団力動について多角的に考える視点を提示し、学生自身が効果的なグループのあり方について考える機会を設けた。
3. 統合看護学の臨地実習指導	2018年、2020年～現在	大阪市立大学医学部看護学科および武庫川女子大学看護学科の4回生を対象に、ティーチングアシスタントあるいは特任助教、講師として、統合看護学実習の指導を行った。各学生が自ら設定した実習目標を大切に、学生の日々の気づきや学びに対して質問やフィードバックを与えるようにした。多くの学生は、実習の振り返りで、チームナーシングを含めたチーム医療のあり方や、病院だけでなく地域を含めた多職種連携など、看護師の担う役割について多角的に理解を深めていた。
4. 基礎看護学の臨地実習指導	2013年	大阪市立大学医学部看護学科の2回生を対象に、ティーチングアシスタントとして「基礎看護実習」の指導を行った。この臨地実習では、学生がスムーズに病院という環境に慣れることや、看護学生としての基本的な態度を身に付けること、学んだ看護技術を対象者に適用すること、論理的に実習記録を記載することなど、各学生の状況に応じて個別に指導した。
5. 成人看護学実習の臨地実習指導	2004年～2007年	大阪市立総合医療センター在職中に、消化器内科病棟で「成人看護学実習」の指導を行った。治療に伴う処置や日々の身体的な看護ケアやだけでなく、退院後の

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		生活を見据えた教育的介入についても指導を行った。学生の多くは見守りのもと患者に退院指導を実施するに至った。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 看護研究方法論の講義	2024年～現在	武庫川女子大学大学院看護学研究科の1回生を対象に、講師として「看護研究方法論」を2コマを担当している。
2. 国際看護学の講義	2022年～現在	武庫川女子大学看護学部看護学科の4回生を対象に、講師として「国際看護学」の国師対策授業を担当している。
3. 看護英語の講義	2022年～現在	武庫川女子大学看護学部看護学科の2回生を対象に、講師として「看護英語」の授業を行っている。
4. 精神看護学関連科目の講義	2021年～現在	武庫川女子大学看護学部看護学科の2回生・3回生を対象に、講師として「精神看護学Ⅰ」「精神看護学Ⅱ」「グループアプローチ」の授業を行っている。
5. 広域実践看護学特論Cの講義	2021年～現在	武庫川女子大学大学院看護学研究科の1回生を対象に、講師として「広域実践看護学特論C」を7コマを担当している。
6. 対人援助論の講義	2021年～現在	武庫川女子大学大学院看護学研究科の1回生を対象に、講師として「対人援助論」を1コマを担当している。
7. 統合看護学実習の臨地実習指導	2021年～現在	武庫川女子大学看護学部看護学科の4回生を対象に、講師として「統合看護学実習」の指導を行っている。
8. 精神看護学実習の臨地実習指導	2021年～現在	武庫川女子大学看護学部看護学科の3回生・4回生を対象に、講師として「精神看護学実習」の指導を行っている。
9. 統合看護学実習の臨地実習指導	2020年	武庫川女子大学看護学部看護学科の4回生を対象に、助手として「統合看護学実習」の指導を行った。
10. 精神看護学実習の臨地実習指導	2019年～2020年	武庫川女子大学看護学部看護学科の3回生・4回生を対象に、助手として「精神看護学実習」の指導を行った。
11. 精神看護学実習の臨地実習指導	2018年	大阪市立大学医学部看護学科の3回生を対象に、助教として「精神看護学実習」の指導を行った。
12. 統合看護学実習の臨地実習指導	2018年	大阪市立大学医学部看護学科の4回生を対象に、助教として「統合看護学実習」の指導を行った。
13. 精神看護学実習の臨地実習指導	2014年～2016年	大阪市立大学医学部看護学科の3回生を対象に、ティーチングアシスタントとして「精神看護学実習」の指導を行った。（各年2クール担当）
14. 基礎看護学実習の臨地実習指導	2013年	大阪市立大学医学部看護学科の2回生を対象に、ティーチングアシスタントとして2週間の「基礎看護学実習」の指導を行った。
15. 成人看護学実習の臨地実習指導	2004年～2007年	大阪市立総合医療センター在職中に、消化器内科病棟で「成人看護学実習」の指導を担当した。
4 その他		
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保健師免許取得	2015年4月24日	第254155号
2. 介護支援専門員免許取得	2006年5月22日	第27062058号
3. 看護師免許取得	1998年4月3日	第992813号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 武庫川女子大学看護学部精神看護学領域 講師	2022年～現在	看護学部看護学科において、「精神看護学Ⅰ・Ⅱ」「精神看護学Ⅱ」「グループアプローチ」「精神看護学実習」「統合看護学実習」「看護英語」「英文講読」「卒業演習」を、大学院看護学研究科においては、

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
2. 武庫川女子大学看護学部精神看護学領域 非常勤講師	2021年	「対人援助論」「広域実践看護学特論C」を、2024年度からは「看護研究方法論」を担当している。その他、教務委員会や臨地実習委員会など大学運営業務に携わっている。 看護学部生を対象とする「精神看護学Ⅰ・Ⅱ」「精神看護学Ⅱ」「グループアプローチ」の講義と「精神看護学実習」「統合看護実習」の指導に関わった。また、大学院看護学研究科においては、「対人援助論」「広域実践看護学特論C」の授業を担当した。
3. 大阪市立大学看護学部精神看護学領域 特任助教	2018年	看護学部生を対象に、主に「精神看護学実習」「統合看護実習」の指導に関わった。また、日本心理教育・家族教室ネットワーク第22回研究集会の準備・運営の実務を行った。
4. 公益財団法人大阪市救急医療事業団 看護師	2012年～2014年	安心センター大阪で、一次救急の電話トリアージ業務に従事した。
5. 大阪市立総合医療センター消化器内科病棟 看護師	2000年～2007年	肝がん、肝硬変、B型・C型肝炎、膵炎、潰瘍性大腸炎、パーチェット病、胃・大腸ポリープ等の内科的治療を行う患者と終末期にある患者の看護に携わった。チームリーダーや看護実習指導、クリニカルパス委員としての役割も果たした。
6. 大阪府立中宮病院思春期病棟 看護師	1998年～2000年	統合失調症、気分障害、摂食障害等の精神疾患をもつ10～20代の患者の看護に携わった。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 新版 疑似カジノ化している日本 ギャンブル障害を乗り越える社会へ	共	2018年10月	認定NPO法人 ビッグイシュー基金	日本におけるギャンブル問題を社会的視点からまとめたレポートである。『疑似カジノ化している日本ーギャンブル依存症はどういうかたちの社会問題か?』(2015年発行)のデータを更新し、ギャンブル障害の医学的考察やラスベガスの現地調査などについて加筆した。 [著者] 黄智暎, 佐野未来, 米本昌平, 水越洋子, 佐野章二
2 学位論文				
1. Prevalence of gambling disorder and its correlates among homeless men in Osaka city, Japan (査読有)	共	2023年3月	京都大学大学院医学研究科医学専攻博士課程	学位論文は、2022年6月15日にJournal of Gambling Studiesに掲載された論文である(「3. 学術論文」の4を参照)。 [Autohoers] Hwang C., Takano T., So R., Sahker E., Kawakami S., Livingstone C., Takiguchi N., Kihara-O M., Kihara M. & Furukawa T. A.
2. 大阪市におけるホームレスの人々の結核検診受診に影響を及ぼす社会・文化・心理的要因や疾患認知に関する探索的質的研究(専門職学位)	単	2018年2月	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 専門職学位課程	58名のホームレス男性を対象に個別インタビューを行い、無料結核検診の受診行動に影響を及ぼす要因について質的に探索した。受診行動の阻害要因として、『生存そのものが優先されるホームレス生活』や『予防行動を消極的にさせる心理状態』『孤立状態による情報の不足』『不十分な知識とリスク認知』『あいりん地域外での社会資源の不足』が明らかとなった。促進要因には、『ホームレス生活の確立・適応』『情報獲得ルートが存在』『ホームレス支援事業に組み込まれた結核検診』『結核検診が無料で簡単であった経験』『正しい知識』があった。
3 学術論文				
1. National burden of gambling in Japan : an estimation from an online-based cross-sectional investigation and national	共	2024年6月26日	BMC Public Health, 24:1703	本研究は、オンライン調査と日本の全国調査である『2018年 国民生活基礎調査』と『2017年 ギャンブル等依存症に関する疫学調査』のデータを組み合わせた横断研究である。2019年の1年間にギャンブル関連害(Gambling-related Harm: GRH)を経験したギャンブル実施者数と、ギャンブルリスクの重症度別に、6つの生活領域におけるGRH経験者数の分布を推定した。その結果、集団レベルで見えた場合、GRE経験者全体の60%以上がリスクのない、あるいは低リスクの者で占められる状況が明らかとなり、公衆衛生的な観点から、ギャン

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
epidemiological survey (査読有)				ブル障害のみに焦点を当てるのではなく、集団レベルでGRHを低減するための対策が必要であることが示唆された。 [Authors] <u>Hwang C.</u> , So R., Hashimoto N., Baba T., Matsushita S., Browne M., Murai T., Watanabe N., & Takiguchi N.
2.Prevalence of gambling disorder and its correlates among homeless men in Osaka city, Japan (査読有)	共	2022年6月15日	Journal of Gambling Studies	大阪市内のシェルターを利用するホームレス男性を対象とし、ギャンブル障害の有病割合とその関連因子を調査した横断研究である。103名の参加者におけるギャンブル障害 (South Oaks Gambling Screen 20点満点中5点以上) の有病割合は、生涯においては43.7%、過去1年間においては3.9%であった。多変量解析の結果、ギャンブル障害 (生涯) と関連する因子として「初めてホームレスになってから20年以上経過」、「ホームレス経験回数が5回以上」「未成年でのギャンブルの開始」「身近にギャンブル問題を抱えた人がいる」が認められた。 [Authors] <u>Hwang C.</u> , Takano T., So R., Sahker E., Kawakami S., Livingstone C., Takiguchi N., Kihara-O M., Kihara M. & Furukawa T. A.
3.Efficacy of Brief Intervention for Unhealthy Drug Use in Outpatient Medical Care: a Systematic Review and Meta-analysis (査読有)	共	2022年4月3日	Journal of General Internal Medicine	プライマリケアにおける薬物乱用に対する最小限のスクリーニングと簡易な介入 (Brief Intervention) の有効性、効果の長さ、および利点を明らかにすることを目的としたメタアナリシスである。CENTRAL、EMBASE、MEDLINE、PsycINFOを用いて、2021年1月13日までの文献を検索した結果、20文献 (7471名) が抽出された。3つのフォローアップ時点におけるBI実施頻度と重症度を分析した結果、一般的なプライマリケアにおけるBIの有効性は不十分であったが、サブグループ解析では、救急および専門クリニックにおけるBIに小さな正の効果がみられた。 [Authors] Sahker E., Luo Y., Sakata M., Toyomoto R., <u>Hwang C.</u> , Yoshida K., Watanabe N. & Furukawa T. A.
4.The Zone and the Shame: Narratives of Gambling Problems in Japan (査読有)	共	2022年3月7日	Critical Gambling Studies 3(1) 83-95	日本のパチンコ関連のギャンブル障害からの回復者が羞恥心や罪悪感、スティグマにどのように対処しているかを探索した質的研究である。2回のフォーカスグループインタビューにおける参加者の語りを分析した結果、参加者は、自責の念や他者からの非難によって、セルフスティグマを感じていたことが明らかとなった。そして、恥や罪悪感、汚名を着せられることへの恐怖が、支援探索行動を阻害していた。 [Authors] Samuelsson E., Törrönen J., <u>Hwang C.</u> & Takiguchi N.
5.Efficacy of brief intervention for drug misuse in primary care facilities: systematic review and meta-analysis protocol (査読有)	共	2020年9月2日	BMJ open 10(9) e036633	プライマリケアで実施される薬物乱用に対する最小限のスクリーニングと簡易な介入 (Brief Intervention) の有効性、効果の長さ、および利点を検証するために実施された無作為化比較試験のメタアナリシスのプロトコルである。比較対象は「通常のケア」あるいは「介入なし」である。 [Authors] Sahker E., Sakata M., Toyomoto R., <u>Hwang C.</u> , Yoshida K., Luo Y., Watanabe N. & Furukawa T. A.
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1.Social Burden of Gambling in Japan: An Estimation from an Online-based Cross-sectional Survey	共	2023年11月2日	25th Annual Meeting of International Society of Addiction Medicine (Marrakech, Morocco)	本研究では、オンライン調査の結果と日本の全国調査のデータを組み合わせ、日本における2019年の1年間にギャンブル関連害を経験したギャンブル実施者数と、ギャンブルリスクの重症度別に、6つの生活領域におけるギャンブル関連害の経験者数の分布を推定した。その結果、集団レベルで見えた場合、ギャンブル関連害の経験者全体の60%以上がリスクのない、あるいは低リスクのギャンブラーであることが明らかとなった。 [Presenters] <u>Hwang C.</u> , So R., Hashimoto N., Watanabe N. & Takiguchi N.
2.Prevalence of	共	2023年8月	8th	大阪市内のシェルターを利用するホームレス男性を対象とし、ギヤ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
gambling disorder and its correlates among homeless men in Osaka city, Japan		23日	International Conference on Behavioral Addictions (Seoul, Korea)	ンブル障害の有病割合とその関連因子を調査した横断研究の結果を発表した。(2022年6月15日Journal of Gambling Studiesに掲載された論文の内容)。 [Presenters] <u>Hwang C.</u> , Takano T., So R., Sahker E., Kawakami S., Livingstone C., Takiguchi N., Kihara-O M., Kihara M. & Furukawa T. A.
3. Gambling-related problems and homelessness: an exploratory qualitative study in Osaka city, Japan	共	2019年11月15日	21st Anural Meeting of International Society of Addiction Medicine (New Delhi, India)	3つのNP0を利用するホームレス男性93名を対象としたインタビュー調査により、ギャンブル問題とホームレス化の関係にはいくつかの共通したパターンがみられた。ギャンブルが原因で経済的に困窮し、ホームレスに至るといった単純な事例は少なく、ギャンブルがストレスコーピングとして用いられ、人間関係や経済的状況、心理状況を複合的に悪化させていくという事例が数多く認められた。 [Presenters] <u>Hwang C.</u> , Takano T., So R., Kawakami S., Kihara-Ono M., Kihara M., & Furukawa TA.
4. Prevalence of gambling disorder among homeless people recruited at selected facilities in Osaka city Japan	共	2019年11月15日	21st Anural Meeting of International Society of Addiction Medicine (New Delhi, India)	大阪市の夜間緊急シェルターとケアセンターを利用するホームレス男性121名を対象としたギャンブル障害に関する疫学調査の結果を発表した。本研究では、一般集団と比較し、この集団における高いギャンブル障害有病者割合が確認された。 [Presenters] <u>Hwang C.</u> , Takano T., So R., Kawakami S., Kihara-Ono M., Kihara M. & Furukawa TA.
5. ホームレスの人々のギャンブル問題に対する支援者の認識と支援体制の状況：質的研究	共	2019年10月24日	第78回日本公衆衛生学会(高知)	本研究では、ホームレス支援に関わる19名の専門職やNP0団体職員等を対象とし、これまでに遭遇してきたホームレスの人々のギャンブル問題の状況や、その状況に対する認識、現場での支援体制についてインタビュー調査を実施した。その結果、ギャンブル問題を抱えるホームレスは多いと認識しているが、どの程度問題であるのかを十分把握できていない現状や支援の難しさなどが明らかとなった。
6. 大阪市の特定施設を利用するホームレスの人々のギャンブル障害の状況	共	2019年10月5日	第76回アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会(北海道)	[発表者] 黄智暎, 石崎美保, 滝口直子 大阪市の夜間緊急シェルターとケアセンターを利用するホームレス男性121名を対象としたギャンブル障害に関する疫学調査の結果を発表した。本研究では、一般集団と比較し、この集団における高いギャンブル障害有病者割合が確認された。 [発表者] 黄智暎, 高野太一, 宋龍平, 川上翔, 木原雅子, 木原正博, 古川壽亮
7. ホームレスの人々の結核検診受診行動に影響を及ぼす要因：探索的質的研究	共	2017年11月	第78回日本公衆衛生学会(鹿児島)	58名のホームレス男性を対象とし個別インタビューによって明らかとなった、無料結核検診の受診行動に影響を及ぼす要因について発表した(専門職学位論文の研究結果)。 [発表者] 黄智暎, 木原雅子, 木原正博
8. Qualitative enquiry of social, cultural, psychological factors and knowledge related to tuberculosis examinations among homeless people in Osaka city, Japan	共	2017年8月	The 49th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference (Seoul, Korea)	58名のホームレス男性を対象とした個別インタビューによって明らかとなった、無料結核検診の受診行動に影響を及ぼす要因について発表した(専門職学位論文の研究結果)。 [Presenters] <u>Hwang C.</u> , Kihara-Ono M., & Kihara M.
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 医学的研究のデザイン 推論の質を高める系統的アプローチ 第5版	共	2024年9月	メディカル・サイエンス・インターナショナル	[原著] Warren S. Browner, Thomas B. Newman, Steven R. Cummings, Deborah G. Grady, Alison J. Huang, Alka M. Kanaya, Mark J. Pletcher (2023). Designing Clinical Research 5th Edition. Wolters Kluwer Health, Inc.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
2. ミクストメソッズ：質・量統合のパラダイム -その理論と健康科学分野における応用と展開-	共	2024年3月	メディカル・サイエンス・インターナショナル	[監訳] 木原雅子, 木原正博 [翻訳担当] 第5章 サンプルサイズを見積もるための準備定：仮説と基本事項, pp64-79; 第6章 サンプルサイズの推定：その応用と実例, pp.80-106. [原著] Leslie Curry, Marcella Nunez-Smith (2015). Mixed Methods in Health Sciences Research: A Practical Primer. SAGE Publications, Inc. [監訳] 木原正博, Murray J. Lawn, 木原雅子 [翻訳担当] 第2章 健康科学分野におけるミクストメソッズの応用とその事例, pp29-56.
3. 学ぶことは変わること：自分と地域の力を引き出すアイデアブック	共	2022年7月	公益財団法人アジア保健研究所 (AHI)	[原著] Werner D., & Bower B. (1984). Helping health workers learn: a book of methods, aids and ideas for instructors at the village level. Hesperian Foundation, California, USA. [監訳] 公益財団法人アジア保健研究所(AHI), 一般社団法人 Bridges in Public Health(BiPH) [翻訳担当 (石崎美保・黄智暎共訳)]: 第1章 「学ぶこと」と「教えること」; 第2章 ヘルスワーカー・インストラクター・アドバイザーを選ぶ.
4. 質的研究法：その理論と方法 健康・社会科学分野における発展と展望	共	2022年5月	メディカル・サイエンス・インターナショナル	[原著] Liamputtong P (2019). Qualitative Research Methods, 5th edition. Oxford University Press, Victoria, Australia. [監訳] 木原雅子, 木原正博 [翻訳担当] 第6章 ナラティブエンクワイアリー: ライフ/オーラルヒストリー, ライフストーリー, バイオグラフィー; 第10章 質的ケーススタディ
5. グローバルヘルス：世界の健康と対処戦略の最新動向	共	2017年9月	メディカル・サイエンス・インターナショナル	[原著] Skolnik, R. (2015). Global Health 101: Includes Bonus Chapter: Intersectoral Approaches to Enabling Better Health, 3rd edition. Jones & Bartlett Publishers, Massachusetts, USA. [監訳] 木原正博, 木原雅子 [翻訳担当 (清水啓介・黄智暎共訳)] 第3章 健康, 教育, 貧困, および経済, pp53-71.
6. 研究費の取得状況				
1. Social Burden of Gambling in Japan: An Estimation from an Online-based Cross-sectional Survey	共	2023年8月	一般社団法人日本私立看護系大学協会 2023年度研究助成事業「国際学会発表助成」：20万円	25th Annual Meeting of International Society of Addiction Medicine (Maracesh, Morocco) の発表のための渡航費の助成 [共同研究者] 黄智暎, 宋龍平, 橋本望, 渡辺範雄, 滝口直子
2. 日本総国民におけるギャンブルの社会コスト推定	共	2019年9月～2022年3月	一般財団法人北海道B型肝炎訴訟オレンジ基金 一般財団法人北海道B型肝炎訴訟オレンジ基金助成事業：200万円	本研究の目的は、日本総国民におけるギャンブルリスク重症度別および6つの生活領域別のギャンブル害の経験者割合を探索し、ギャンブル害を経験した日本総国民の数を推定することである。 [研究代表者] 滝口直子 [共同研究者] 黄智暎, 宋龍平, 橋本望, 馬場敏明, 渡辺範雄, 村井俊哉
3. 日本におけるホームレスの人々のギャンブル障害の実態	単	2019年4月～2021年9月	日本学術振興会 科学研究費助成事業 特別研究員奨励費：210万円	本研究の目的は、ホームレスの人々におけるギャンブル障害の有病率のその関連要因、ギャンブルとホームレス状態の関連を明らかにすることである。 [研究代表者] 黄智暎
4. 大阪市におけるホームレスの人々のギャンブル障害の実態	共	2018年4月～2019年3月	特定非営利活動法人依存学推進協議会 NPO法人 依存学推進協議会 2019年度研究助成：40万円	本研究の目的は、ホームレスの人々におけるギャンブル障害の現状と、ギャンブルとホームレス状態の関連を明らかにすることである。 [研究代表者] 黄智暎 [共同研究者] 宋龍平, 木原雅子, 木原正博
5. 大阪市におけるホームレスの人々の結核検診受診行動に影響を及ぼす要因	単	2015年9月～2018年3月	文部科学省博士課程教育リーディングプログラム 京都大学グローバ	本研究の目的は、ホームレス男性を対象に無料結核検診の受診行動に影響を及ぼす要因について質的に探索することである。 [研究代表者] 黄智暎

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

6. 研究費の取得状況

			ル生存学大学連携プログラム 応募制研究資金 : 90万円 (2015年), 85万円 (2016年), 80万円 (2017年)	
--	--	--	---	--

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2024年	国際専門誌『Alcohol』のpeer review
2. 2023年～現在	日本精神保健看護学会 会員
3. 2022年	国際専門誌『Neuroscience and Biobehavioral Reviews』のpeer review
4. 2022年, 2023年	国際専門誌『Journal of Gambling Studies』のpeer review
5. 2020年4月～現在	日本混合研究法学会 会員
6. 2018年8月～現在	日本アルコール・アディクション医学会 会員
7. 2018年8月～現在	日本アルコール関連問題学会 会員
8. 2017年4月～現在	日本公衆衛生学会 会員